

研究・調査報告書

報告書番号	担当
87	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>The effect of alcohol intake on cardiovascular disease and mortality disappeared after taking lifetime drinking and covariates into account.</p> <p>循環器疾患および総死亡への飲酒の影響は生涯飲酒量を考慮すると消失する</p>	
執筆者	
Friesema IH, Zwietering PJ, Veenstra MY, Knottnerus JA, Garretsen HF, Kester AD, Lemmens PH.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Alcohol Clin Exp Res 2008; 32: 645-651.	
キーワード	
飲酒、心血管病、コホート研究、オランダ、質問表	
要 旨	
<p>背景： 飲酒は循環器疾患の罹患、死亡との関連が報告されてきたが、過去飲酒や生涯飲酒量はあまり考慮されていなかった。本研究では現飲酒、過去飲酒、生涯飲酒が循環器疾患イベントおよび総死亡に与える影響を検討する。また、この関係に関連する要因についても検討する。</p> <p>方法： Lifestyle and Health study はオランダの2地域の前向きコホート研究である。34の診療所を受診している45-70歳の男女を1996年から2001年まで追跡した。ベースラインにおいて詳細な質問調査を行った。飲酒については3種の質問票（一週間思い出し、昨年の飲酒量と頻度、生涯飲酒歴）を用いた。健康状態については主治医から得た。</p> <p>結果： 追跡期間中、男性679人、女性397人が循環器疾患イベントを起こし、男性330人、女性204人が死亡した。現在飲酒者は非飲酒者に比べ循環器疾患リスク（女）、総死亡リスク（男女）が低かった。この関連は一週間思い出しによる飲酒量において最も強かった。生涯飲酒量およびかなり以前の飲酒量は総死亡および循環器疾患イベントとの関連はなかった。他の要因の調整により関連は弱くなった。</p> <p>結論： 生涯飲酒量や過去の飲酒量は総死亡や循環器疾患イベントと関連しないようであり、飲酒の潜在的効用は一時的なものようである。ベースラインの飲酒の効用の可能性は方法の質と厳密性を高めることで消失した。</p>	